

●この資料の取扱いについては、次のとおりお願いします。	
ラジオ・テレビ・インターネット	解禁日は設定していません。
新聞	解禁日は設定していません。

お問い合わせ先	
羽曳野市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財・世界遺産室	
電話	072-958-1111 (代) (内線 4484)
直通	072-947-3904
メール	bunka-sekai@city.habikino.lg.jp

表 題	「峯ヶ塚古墳の発掘調査成果」及び「発掘調査現場の公開」について
内 容	<p style="text-align: center;"><b>「峯ヶ塚古墳の発掘調査成果」</b></p> <p>峯ヶ塚古墳の墳丘北側において、発掘調査を行いました。</p> <p>調査成果は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1段目テラス(墳丘の斜面にある平たいところ)を確認しました。</li> <li>○後円部にふかれていた葺石(ふきいし)が、原位置(古墳を築造したときに置かれたままの状態)を保ったままの状態を確認しました。また、墳丘1段目斜面に葺石がふかれていたことが判明しました。</li> <li>○造出しの上面と考えられる箇所を確認しました。</li> </ul> <p><b>【峯ヶ塚古墳の特徴】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の史跡でもあり、世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」を構成している古墳でもあります。</li> <li>・峯ヶ塚古墳は、一般に立ち入ることができない陵墓の多い古市古墳群の中にありながらも、羽曳野市が発掘調査を行える数少ない前方後円墳のひとつです。(図1)</li> </ul> <p><b>【峯ヶ塚古墳の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出土した遺物から5世紀末(今から1,500年ほど前)に築造されたと考えられています。</li> <li>・墳丘長96mを測る前方後円墳で、二段に築かれています。</li> <li>・墳丘の北側には、「造出し」と呼ばれる壇状の出っ張りを取り付いています。(図3)</li> <li>・墳丘は二重の濠で囲まれています(外濠については、南側では存在が確認できていません)。</li> </ul> <p><b>【造出し周辺の調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年から令和3年にかけての調査によって「造出し」と呼ばれる儀式を行った場所の規模が判明しました。墳丘の大きさに比べてやや大きく、長さ約20mを測る造出しであることが分かりました。(図4)</li> <li>・昨年(令和4年)には、造出し付近の周濠内より日本最大の「木のはにわ」が出土しました。</li> </ul> <p><b>【今年の調査】</b></p> <p>今回は、「造出しが墳丘のどの高さに取り付くか」を確認することを目的に調査を行いました。墳丘北側の斜面に発掘調査区を2カ所設定して調査を実施しました。</p> <p><b>①東側「第1調査区」について(写真1)</b></p> <p>幅約0.6m、長さ約9mの範囲で掘下げました。</p>

・ 1 段目テラスを確認

調査区南端で円筒埴輪の底部付近がある程度形を保った状態で倒れていました。(写真 A)

この円筒埴輪を取り上げると壁断面において、別個体の円筒埴輪を確認しました。(写真 B)

これらから、円筒埴輪が並んでいたことが推測できます。

古墳のテラスには円筒埴輪を並べる例がおおく、この場所に 1 段目テラスがあったと思われます。

・ 後円部にふかれていた葺石を確認

調査区中央付近で人頭大の葺石が円弧を描いて並ぶように確認されました。(写真 C)

築造当初の位置を保ったまま出土したものと考えられます。

また、これまで峯ヶ塚古墳の墳丘には 1 段目テラスから墳頂にかけて一部分のみハチマキ状に葺石がふかれていたと考えられてきましたが、今回の調査により、一段目斜面にも葺石がふかれていたことが判明しました。

・ 第 1 調査区は後円部と造出しの間の「谷」か？

調査区北側でも人頭大の石が直線的に並んで確認されました。

過去の調査で確認した造出しの東辺の延長上にあることから(写真 3)、造出しの端に設置していた石と考えていますが、調査範囲が狭いことから確定的ではありません。

少なくとも第 1 調査区は後円部と造出しの間にある「谷部分」にあたると考えています。

## ②西側「第 2 調査区」について

幅約 0.9m、長さ約 4.5m の範囲で掘下げました。

・ 造出しの取り付き部分を確認

地層(土層)を確認したところ、墳丘の盛土が途中まで平たく、急に斜めに立ち上がります。

このことから、この「平たい」部分が本来の造出しの上面である可能性が考えられます。

以上より、築造当初の峯ヶ塚古墳がどのような形状をしていたのかを考えるうえで有益な成果を得ることができました。

## 「発掘調査現場の公開」

一般の方向けに発掘調査現場を公開します。

詳細は以下のとおりです。

・ 場所：峯ヶ塚古墳の墳丘北側

・ 日程：令和 6 年 1 月 13 日(土)

・ 時間：10 時～15 時

※雨天は中止です。(小雨決行)

※見学の駐車場は用意しておりませんので、公共の交通機関でお越しください。

※やむを得ずお車で来られる場合は有料駐車場をご利用ください。また近隣のご迷惑になりますので、路上駐車、その他商業施設での駐車は絶対にしないでください。

写真データ等が必要な場合は、「問い合わせ先」までご連絡ください。

図1 古市古墳群略図





図3 前方後円墳模式図（造出しとは？）

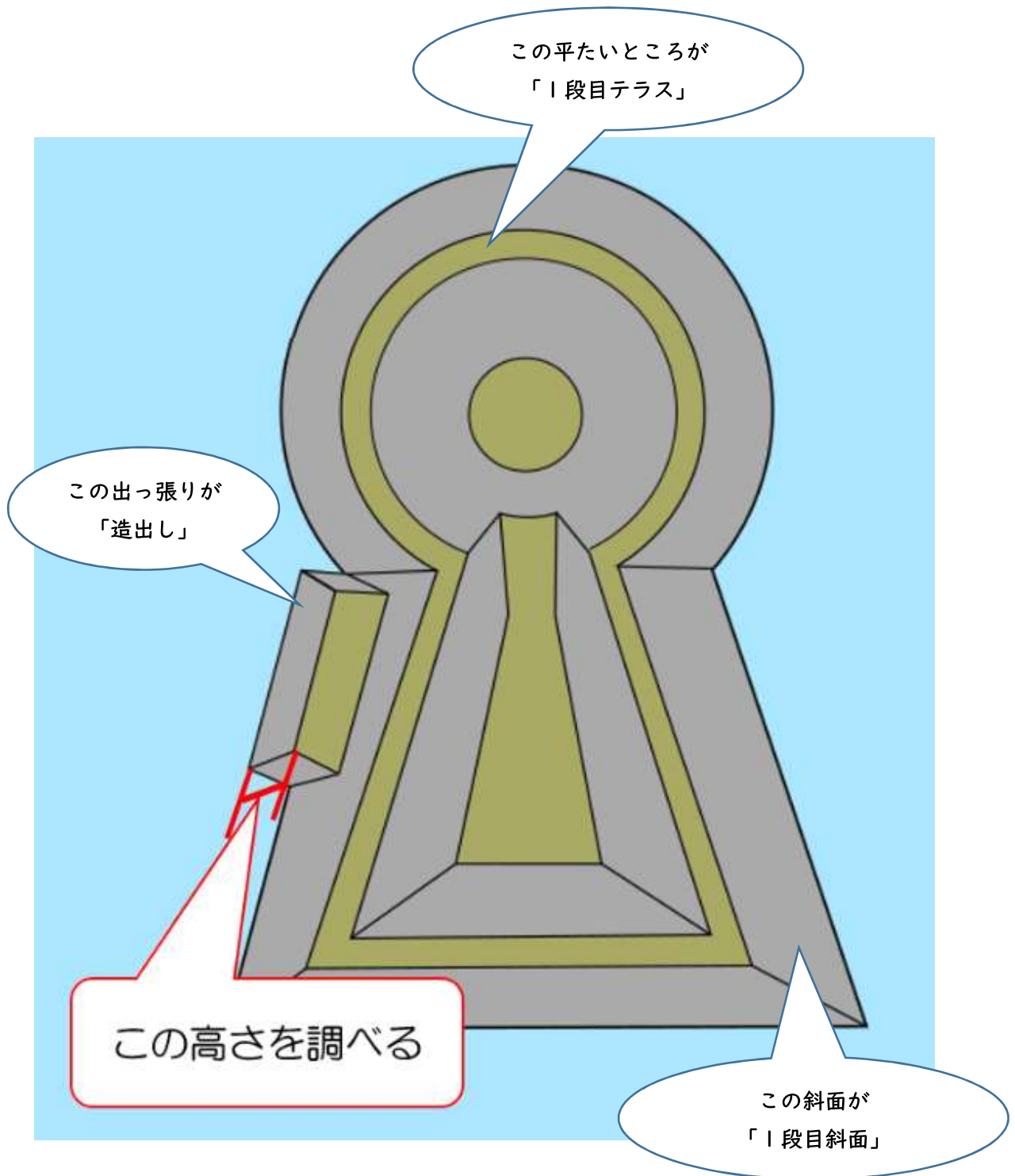


図4 過去の発掘調査成果の合成図

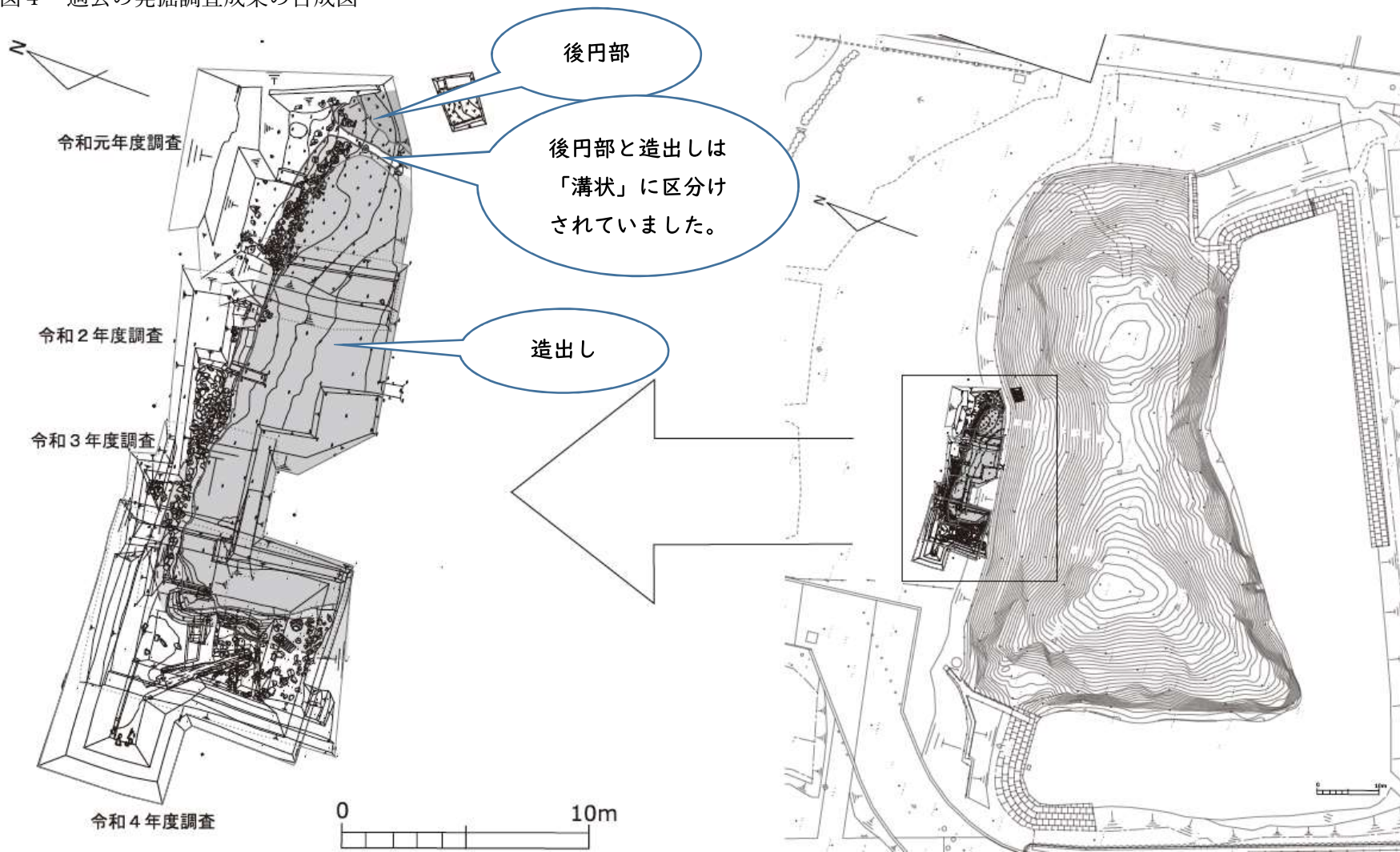


图5 調査区位置図

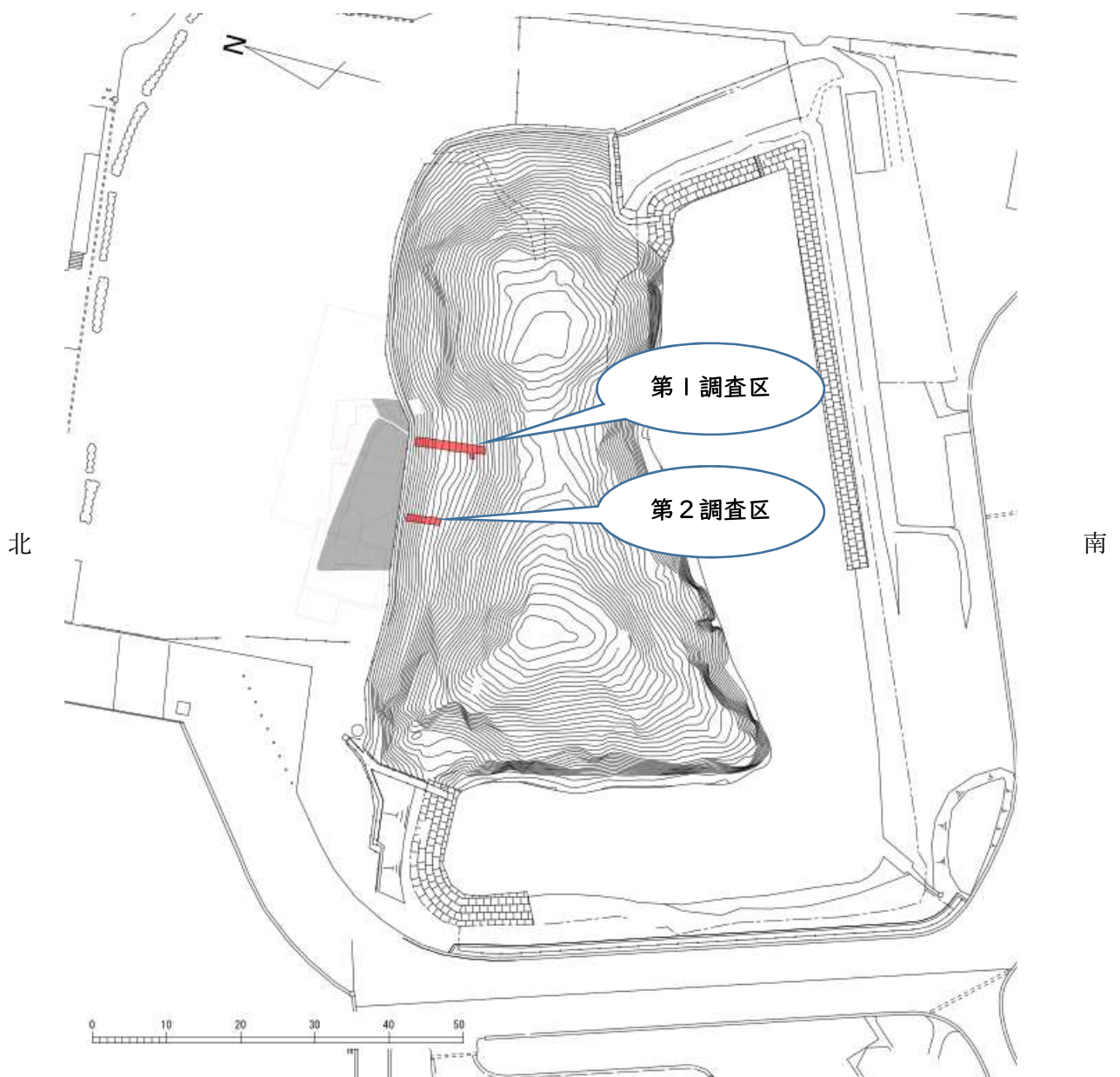


写真1

第1調査区

直上写真及び断面写真



北

南

ここに倒れた状態で出土した円筒埴輪がありました。(写真A参照)

円弧を描くように石が重なって並んでいます。(写真C参照)  
後円部にふかれていた葺石と考えられます。



この壁断面からも別個体の円筒埴輪がみつけられました。(写真B参照)

石が直線状に並んでいます。  
造出し東辺の延長線上にあたります。  
造出しの端に設置していた石でしょうか。

「1段目テラス」と考えられます。

この場所に円筒埴輪が並んでいた





写真 A



写真 B



写真 C



後円部の丸みに沿って  
葺石がふかれています。

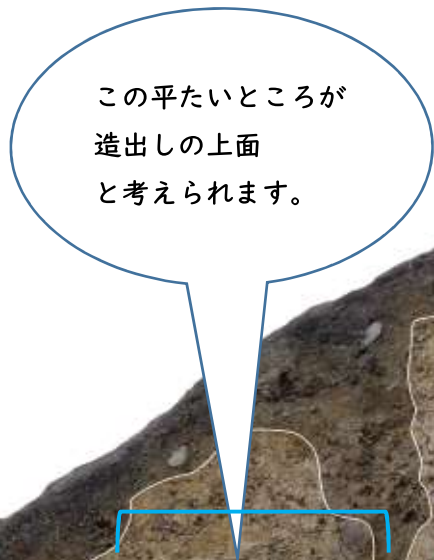
写真2

第2調査区

直上写真及び断面写真



北



南



写真3

過去の調査区の合成写真（位置はおおよそ）

※赤線が想定される造出しの裾



北



南

その他の写真

①第1調査区



②第1調査区



③第2調査区



④第2調査区



⑤第1調査区円筒埴輪



⑥第1調査区葺石

